

林業職種で伐採研修後の受入れへ

ミャンマーに林業技術者派遣、基礎学習・機械操作など

アジアアグリ協同組合

アジアアグリ協同組合(東京都、市来直也代表理事)は、「外国人の技能実習の適切な実施及び技能実習生の保護に関する法律施行規則の一部を改正する省令案(林業職種)」のパブリックコメントが実施されたことを受けて、ミャンマーで日本の林業に関する基礎学習・伐採機械操作などの研修を実施した後に、伐採作業を含めた林業職種として受け入れていくための準備を開始した。

同協組九州支部(鹿)置かれるが、林業職種児島市、塚本信也支部の業態の特殊性を考慮長)が宮崎県の有力素材生産事業者・団体との協議を通して、造林・植林分野だけでなく伐採などでも外国人技能実習生を受け入れられる方策を検討。通常の技能実習では日本人国前の技能実習生の海外における教育は日本語の語学学習に重点が

ことを受け、製材工場などの受け入れに向けた面接を実施して、現在は入国待ちの状況にある。

林業職種については昨秋にパブリックコメントが実施されたこと、遅くとも今年度末までには追加される見通しになったことから準備を開始した。

そのなかで宮崎県の素材生産事業者との林業職種受け入れに向けた協議が始まり、まずは造林・植林分野での面接などを既に実施。林業職種が追加されるまでの間に日本語研修

など力を入れていく。また、伐採作業などでの人手不足が深刻なことも把握したが、チェンソー作業などには危険が伴い、他業種に比べ労災死亡率なども高いことから慎重な検討を進め、ミャンマーで事前準備ができる環境を整えることにした。現在は現地の送り出し機関との協議を進め、日本の林業技術者を派遣し現地で基礎学習や機械操作を学べる体制を準備している。

一方、ミャンマーやインドネシアで募集を実施すると、かつて伐採作業などの林業を経験している人も少なくないという。半年ほどの実習により、伐採作業に向くかなどの適正判断なども見込む。塚本支部長は「宮崎県の関係者と協議するなかで、林業・素材生産事業者が明るい職場ということも分かり、支援ができるのではなにかと考えた。外国人技能実習生制度は人選やリスクなどを受け入れ先事業者が担うというなかで、若くしかりした人材受け入れを支援し、人手不足を解決して産業の将来性につなげられれば」と話す。同組合は全国対応可能なが、林業職種については、まず九州支部を窓口に進めていく。

人事異動

ジョリーグループ 8月1日付
▽兼情報システム部長 常務グループ事業統括部・情報システム部・DX推進室担当岩瀬裕道
ジュエテック 8月1日付
▽兼情報システム部長 取締役情報システム部担当岩瀬裕道

移転

★木構造振興(山田壽夫社長)は左記に移転し、20日から業務を開始する。
これに伴い、国産材製材協会、日本特殊加工化粧板協議会、日本木材乾燥施設協会、日本木質内装材工業会、日本木製サッシ工業会、木造住宅接合金物協会も左記に同時移転する。住所は左記の「木構造振興内」。

南阿蘇鉄道の高森駅と交流施設が、木造により完成した。2016年に発生した熊本地震から、南阿蘇鉄道沿線地域の「創造的復興」(熊本県)の一環として整備された。活用された木材は、地元

の南郷松など、オリジナルの3次元相持ち構造の木組み

駅が木造で完成

南阿蘇鉄道高森駅・交流施設は、駅舎が地上2階、交流施設が地上1階の木造で、整備面積約8550平方メートル、延べ床面積が駅舎約522平方メートル、交流施設261平方メートル。事業主体は高森町、協力は南阿蘇鉄道、くまもとアートポリス事務局(熊本県建築課内)。設



高森駅が木造で完成。駅舎が地上2階、交流施設が地上1階の木造で、整備面積約8550平方メートル、延べ床面積が駅舎約522平方メートル、交流施設261平方メートル。事業主体は高森町、協力は南阿蘇鉄道、くまもとアートポリス事務局(熊本県建築課内)。

ザイン」のプロポーザルが18年にくまもとアートポリスによって実施され、とにかく広いプラットフォームを支える修羅組みは、木材が担った。新しい高森駅は線路側を正面として乗客を迎えるようにつくられている。線路側を向き、広場を中心とした駅の構成は世界的にも珍しいという。また、観光客が快適に利用できるだけでなく、災害時の大規模利用の

▽新住所「1000」